

22日投開票の総選挙で、日本共産党は、小選挙区では沖縄1区で赤嶺政賢氏が「オール沖縄」の力で見事勝利をかちとりましたが、比例代表では前回の20議席(606万票、11.37%)から11議席(440万票、7.91%)へと後退する残念な結果となりました。そうしたなかでも、比例代表北陸信越ブロックで、前回11年ぶりに奪回した「宝の議席」である藤野保史氏の議席を守りぬくことができたことは大きな喜びです。県内の小選挙区では、黒崎清則候補(1区)、本田正和候補(2区)、鈴木宏太候補(3区)が、安倍政権の退陣を訴え、自民党候補と正面から対決して奮闘しましたが、いずれも及びませんでした。

なお県内では、9月の加賀市議選に続いて、能美市議選と七尾市議選が総選挙と同時選挙となりましたが、いずれの市議選でも党候補が当選を果たしました。

ご支持、ご支援をいただいたみなさんに心から感謝を申し上げます。

今回の総選挙では、自公など改憲勢力が3分の2の議席を占める一方で、市民連合と7項目の政策合意を結んだ共産党、立憲民主党、社民党が協力・連携して選挙をたたかい、立憲民主党が野党第一党へと躍進するなど、3野党全体としては公示前の38から69議席へと大きく前進するうれしい結果となりました。日本共産党は全国で市民と野党の共闘の前進のために、67の選挙区で候補者を下ろす決断も行い、共闘勢力が全体として議席を伸ばすうえで大きく貢献しました。

県内の小選挙区では、民進候補が3人も「希望」に移り、社民党も自主投票を決めたなか、わが党が3選挙区すべてで党候補を擁立し、自民・希望の改憲勢力と正面から対決してたたかったことは、たいへん大きな意義を持ちました。

県内では市民と野党の共闘は実現しませんでしたでしたが、公示後に旗揚げした立憲民主党県支部準備会の栗森喬共同代表が、選挙中、日本共産党の街頭演説会に参加して共産党の躍進にエールを送りました。いしかわ市民連合に結集する市民のみなさんも、ギリギリまで野党共闘実現へ力をつくし、選挙中には、立憲野党の前進を願って野党3党の共同街宣の場を設定するなど努力がありました。県内でも、新しい、市民と野党の共闘の「前進の芽」が生まれた選挙となりました。

市民と野党の共同で政治を変える、新しい時代が始まっています。相互にリスペクトを払い、手をつなぎながら、そのなかで日本共産党の値打ちを輝かせ、広い国民、県民に理解してもらい、どんな激動が起こっても、自らの力で前進をかちとることができる自力をつけることが求められています。

今回の選挙の教訓を全国のとりくみからも深く学び教訓を汲みとるとともに、広範な国民、県民のなかで、ただちに選挙戦で訴えた公約実現のとりくみ、9条改憲阻止のたたかいを広げるとともに、日本共産党の綱領や歴史、理念を丸ごと理解していただく運動、強く大きな党づくりに力をつくします。そして、次の国政選挙、統一地方選挙での捲土重来を期し、全力をつくす決意です。